

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

地域医療連携室ニュース

発行 公立阿伎留医療センター
編集 地域医療連携室
TEL 042 (558) 0321
FAX 042 (550) 5190

CONTENTS

『ご挨拶』と『症例の紹介』

リウマチ科 妹尾 由美子

『ご挨拶』と『症例の紹介』

リウマチ科 妹尾 由美子

ご挨拶

平成 25 年 4 月より当院内科所属にて診療に携わっておりました。common disease である肺炎や尿路感染症、生活習慣病も診ておりますが、本来の専門は関節リウマチや膠原病といったリウマチ性疾患です。これまで都立病院のリウマチ膠原病科で研鑽を積んできました。着任後 1 年しか経過していないこともあり、これらの分野の新規の患者さんがまだ少ない印象で、今後受診してくださる方がもっと増えることを期待しています。リウマチ膠原病分野の代表疾患である関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症等の概略と、他院からの関節リウマチの紹介事例をお伝えします。

<関節リウマチ>

病態：複数の遺伝的要因と環境因子により自己免疫応答が活性化する自己免疫性疾患です。炎症の始まりは関節の中の滑膜からで、慢性炎症が続くことで進行性に関節が破壊されていきます。また、罹病期間が長期にわたると関節のみならず、呼吸器病変や血管炎を伴うことがあり、全身性疾患の側面もあります。罹患関節は手首や手指が多く、腫れや痛み、朝の指のこわばりが自覚されますが、肩・肘・膝・足関節も含め、滑膜のある全ての関節が対象となります。

診断：腫脹・圧痛関節の部位・数、採血での炎症反応や特異抗体、罹病期間等に基づいて診断します。画像的なびらんや滑膜炎の有無も重視します。

治療：疾患活動性の程度を評価し、米国・欧州のリウマチ学会のガイドラインを参考にし、個々の患者さんの状態（副作用リスク）を重視し、どの免疫抑制薬をどのくらい投与するか決めます。その後、1～3か月ごとに治療を見直していきます。免疫抑制薬の代表がメトトレキサート（MTX）です。代表的副作用は感染症で、その他、腎障害、肝障害、間質性肺炎などがあります。関節リウマチは発症後 2 年以内に急速に関節部位の骨破壊が進行するため、できる限り早期に診断し、強力な治療を早めに開始することが重要です。この観点からも、疑わしい症例は早めにご紹介いただければと思っております。

<全身性エリテマトーデス (SLE) >

病態：関節リウマチと同様、遺伝因子と環境因子が複雑に関与する自己免疫疾患です。抗核抗体（細胞の核内成分に対する自己抗体）が高率に検出されます。症状は皮膚（光線過敏症、顔面の頬部紅斑・円板状紅斑）、口腔内潰瘍、関節の腫れ・痛み（関節リウマチと異なり骨破壊なし）、腎障害、神経障害、胸水があります。発症初期は微熱が続くこともあります。採血検査では溶血性貧血や白血球・リンパ球減少、血小板減少がみられます。

治療：ステロイドと免疫抑制薬（シクロフォスファミド、アザチオプリン、カルシニューリン阻害薬等）が基本です。初期の強力な治療（寛解導入療法）と寛解維持療法があります。症状の出る部位や重症度によって、ステロイドと免疫抑制薬の投与量および投与期間が異なります。

<強皮症>

病態：皮膚や内臓臓器の線維化（硬化）と末梢循環障害が特徴です。皮膚硬化範囲によって、全身性と限局性に分類されます。抗核抗体が高率に陽性となります。皮膚硬化は浮腫期→硬化期→萎縮期と変化します。寒冷時に手指の血管が攣縮し白色や紫色に変化するレイノー症状は典型的です。その他、間質性肺疾患、肺高血圧、腎病変、消化器病変を伴うことがあります。

治療：ステロイドの有効性はかなり限られます。多彩な症状にあわせて免疫抑制薬、血管拡張薬/血流改善薬、ACE 阻害薬、Ca 拮抗薬、消化管運動促進薬などを用います。

<皮膚筋炎/多発性筋炎>

病態：四肢近位筋、頸部筋の対称性筋力低下を認め、皮膚筋炎はさらに眼瞼、手指・四肢伸側、胸部や肩に特徴的な皮膚症状を伴います。その他、間質性肺炎や嚥下障害、関節痛を伴うことがあります。

治療：ステロイド、免疫抑制薬、免疫グロブリン大量静注療法があります。

<紹介症例>

最初の関節痛は平成 24 年 4 月頃に出現し、近隣の医院を受診し関節リウマチと診断されました（関節リウマチの診断経験のある医院）。活動性が高いため治療は MTX や生物学的製剤が望ましいと考えられましたが、採血検査で間質性肺炎の疑いがあり、当院にまず画像検査の依頼がありました。画像で間質性肺炎を認め MTX は使用が難しいと判断しました（MTX 副作用にも同疾患があるため）。さらに B 型肝炎ウイルス抗体（HBs 抗体、HBc 抗体ともに）陽性のため、生物学的製剤を含めた免疫抑制薬全般を単純に導入することはできませんでした。理由は、これらの抗体陽性者には B 型肝炎ウイルス抗原（HBV）が潜在的に存在する場合があります、薬剤投与によってウイルス再活性化のリスクが高いためです。そのため事前に HBV の DNA 量を測定しリスクの程度を確認します。また、治療開始できたとしても、その後も定期的に HBV-DNA 量が検出感度未満であるかどうかを確認していくことが必要です。本症例は生物学的製剤導入を前提に、事前検査ときめ細かい事後フォローが可能ということで当院紹介となりました。ちなみに感度以上になった場合は至急、ウイルス増殖抑制薬の投与が必要となります。この場合は消化器科にコンサルトしながらフォローすることになりますが、他科に容易にコンサルトできるメリットが病院にあるともいえます。この症例は現在、HBV-DNA 量が未検出であることを毎月確認しながら、生物学的製剤を使用し関節リウマチの活動性を抑えています。

今後、関節リウマチの疑いのある症例はもちろん、免疫抑制薬導入にあたり事前検査が必要なケース、導入後のフォローアップが必要なケースもご紹介いただければと思います。その他、感染症としては説明しずらく、皮膚症状や関節・筋症状などから、もしかしたらリウマチ性疾患かもしれないと思われる場合もご紹介ください。

お知らせ

平成26年度第1回登録医、登録歯科医及び地域医師会との情報交換会開催について

開催日：平成26年6月23日（月）午後7時30分～

場 所：あきる野ルピア3階 ルピアホール

内 容：(1)事例報告

(2)情報交換会

詳細は後日郵送にてご案内いたします。多数のご参加をお待ちしています。よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

平成26年度第1回介護施設等との情報交換会開催について

開催日：平成26年7月14日（月）午後6時30分～

場 所：あきる野ルピア3階 ルピアホール

内 容：（1）講演会

（2）情報交換会

詳細は後日郵送にてご案内いたします。多数のご参加をお待ちしています。よろしくお願い申し上げます。

2014年4月 『がん患者サポート外来』を開設致しました

近年、わが国では2人に1人ががんになる時代と言われ、がん医療における医学的進歩もあり、がんと診断された後も治療を続けながら社会生活を送ることが可能となっています。長期生存が可能な疾患となった一方、「がんと共に生きる」ことで様々な不安や気がかりが生じています。

そこで、当院通院中のがん患者様とそのご家族様を対象にした「がん患者サポート外来」を開設して、相談支援を実施することになりました。がん患者様が、その人らしさを保ちながら治療や日常生活を安心して送れるように支援させていただきます。「がん患者サポート外来」に関するお問い合わせは、地域医療連携室までお願いいたします。

外来以外にも、緩和ケア認定看護師・リンパ浮腫療法士等、がん領域の専門資格を取得している看護師がチームを結成し、がん患者支援を行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。

がん患者サポート外来開設のお知らせ

日時：毎週金曜日9：00～12：00（予約制）
（上記日時以外も随時）

場所：外来相談室または入院病棟

対象：当院通院中の患者様およびご家族様

担当：高橋 真由美（がん化学療法看護認定看護師）

料金：保険適用



1人で悩まずに
ご相談ください

がんに関する悩み・日常生活・治療についてなど、患者様とご家族様に寄り添い、支援させていただきます。
患者様の主治医と連携を図りながら進めて参りますのでお気軽にご相談ください。

ご予約：地域医療連携室または
主治医へご相談ください

5月の医師の人事異動

5月1日 採用

常勤	消化器内科	秋山 響子
非常勤	脳神経外科	岡田 啓

4月30日 退職

常勤	消化器内科	葉山 譲
非常勤	脳神経外科	末松 慎也

3月の紹介患者数と画像検査数をご報告致します

FAX による紹介患者は92人、また紹介状持参による紹介患者は289人、合計381人でした。CT・MRIの画像検査のFAX 紹介は43人でした。3月の紹介率は25.1%でした。地域の医療機関連携推進のために紹介状のご持参をお願い致します。ご紹介誠にありがとうございました。

公立阿伎留医療センター「地域医療連携ニュース」の内容や、紹介患者様の受診・入院等の問い合わせは、下記にご連絡をお願いいたします。地域医療連携室 責任者:望月 尚子
電話番号 042-558-0321 内線2123 FAX番号 042-550-5190

公立阿伎留医療センター 地域医療連携室 新メンバー紹介



写真前列 左側より

責任者（看護師） 望月 院長 荒川 副院長 西成田

写真後列 左側より

事務主任 神田 事務 坂本 事務 新西 看護師 稲垣 相談員 岩井 相談員 百瀬 相談員 坂原